

はじめに

当研究所は、昭和 37 年（1962 年）に市内 4 保健所の試験室を統合し衛生試験所として発足し、昭和 48 年（1973 年）に衛生研究所と改称。その後、昭和 63 年（1988 年）に現在の庁舎に新築移転し、公衆衛生や環境保全の科学的・技術的拠点として検査機能の拡充を図りながら、感染症のまん延防止、母子関連疾病の早期発見、食品や大気・水質環境の安全確保等のため、市民のくらしや健康に関わる幅広い分野の試験検査・調査研究を行っています。

昨今、中南米を中心に、デング熱などと同様に蚊を介して感染するジカウイルス感染症が流行しており、日本国内において感染した例はありませんが、流行地域への渡航者から患者が発生しているなど、人や物の交流の国際化が進む時代となって、これまで国内ではみられなかった感染症や不適切な食品などにより市民のくらしや健康が脅かされるようになりました。

また近年、環境分野では微小粒子状物質 (PM2.5) などの越境大気汚染物質などにより快適な生活が損なわれるなどの新たな問題も生じています。

このような状況から、健康危機への対応がますます重要になってきており、当所では日頃から関係機関との連携、健康危機に関する情報の把握、検査技術の研鑽・継承による人材育成等に努めるとともに、厳しい財政事情の中で、検査機器の更新等を行い検査体制の整備強化を図ってきました。

今後も、国や他都市の研究機関等と緊密に連携し協力を得ながら、検査の能力や信頼性の一層の向上に向け職員一丸となって取り組んでまいります。

また、当所では、施設見学の受入れなどを行っておりますが、市民により開かれた親しみある施設として情報発信等の充実にも取り組んでまいりたいと考えています。

本年報は、平成27年度の当所における事業概要や調査研究の成果等を取りまとめたものです。皆様には、ご一読のうえ、当所の業務にご理解を深めていただくとともに、お気づきの点などについてご意見・ご指導をいただければ幸いです。

平成28年（2016年）8月

札幌市衛生研究所長 木田 潔